

小中一貫教育とCSのさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.51 R5.6.30 幕別町教育委員会 学校教育推進員

順延となった学校があったものの、すべての学校で運動会・体育祭が無事終了しました。アフターコロナの日々を実感する行事となりました。大きな行事を無事終え、ホッと一息つくところですが、これからの1か月、各学校では、1学期の教育活動を振り返り、2学期の見通しをもつ時期となります。子ども達も早め早めに取り組を進め、余裕をもって夏休みを迎えたいものです。今回は、コミュニティ・スクール（CS）の特集です。

コミュニティ・スクール(CS)って何？

一言でいうと学校運営協議会を設置している学校のことです。地域と学校と一緒に子ども達の教育を担おうとする考え方に基づいて作られた制度で、「地教行法」第47条の5という法律に学校運営協議会制度が定められています。文部科学省では次のように説明しています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

文部科学省 HP より

どうしてこんな仕組みが作られたの？

本来、子どもを教育するには、学校が担う学校教育、地域が担う社会教育、保護者が担う家庭教育の3つが同様に力を発揮しなければなりません。ところが、次第に学校教育の比重が大きくなりバランスが崩れてきました。そこで、考え出された仕組みがコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）なのです。

学校運営協議会ではどんなことをするの？

協議会委員の主な役割は3つあります。

- ①校長が作成する学校経営方針を承認する。
- ②学校運営に関する意見を校長や教育委員会に述べる。
- ③教職員人事についての意見を校長や教育委員会に述べる。

文字にすると「これだけ？」って印象をもたれるかもしれませんが、けっこうやることがあるのです。

方針を承認するためには学校のことをよく知らなくてはなりませんから、学校行事や参観日に訪問したり先生方の話を聞いたり、学校を知るための努力をすることになります。また、方針を承認することは目標達成の責任を一緒にもつことになり、教育活動を進めるためのアイデアを一生懸命考えることも必要になります。

運営協議会では、そんな委員の皆さんからたくさん考えや意見を出していただくために、話し合いの形式が工夫されています。話し合いには、自由に考えを出し合う「熟議」と具体的な方針を決める「協議」の2つがあって、実際の熟議ではワークショップ形式で和気あいあいと笑い声があふれる中、様々な意見がたくさん出されています。



札内東学園運営協議会の熟議の様子

CSのメリット、デメリットを教えて！

うまくいった場合

学校にも保護者・地域にも子どもにも大きなメリットがあります。

学校

- ・学校だけでは見えなかった視点による改善策が見つかる。
- ・学校の理解者・協力者が増え、協力体制が強くなる。

地域

- ・地域課題の解決の糸口が見つかる。
- ・地域の交流が活発になり、助け合い支え合う魅力ある地域になっていく。

子ども達の教育が改善する

うまくいかなかった場合

例えば、保護者や地域が、学校を好き勝手に変えようとしたり、クレームをつけるだけで協力しなかったりすると、かえって学校の負担が増え学校が疲弊することになります。

また、目標や活動の見通しなどがはっきりしないと、参加者のモチベーションが下がり、集まる人が減ってしまいます。「CSは効果がない」「負担だけだ」との思いが強くなります。

幕別町のコミュニティ・スクールの様子は？ ～各学園の学校運営協議会



まくべつ学園

「幕別の良さを知りふるさと幕別を自慢できる子ども」を育てるために何ができるか、どんな活動に参加できるか等の熟議を行っています。委員それぞれが持っているネットワークを生かそうとの声も出ています。



糠内学園

協議会委員の発案により始まった鹿児島県奄美大島の小中学校とのオンライン交流は、今年度小学校も参加して学園全体の取組となりました。熟議で検討した目指す子どもの姿を、この交流を軸として実現しようと、取組を進めています。



さつない学園

先進事例の動画で活動を学びながら委員それぞれの思いを出し合い、学校運営に反映させる熟議を行っています。学校のために何ができるか、考えを出し合っています。



札内東学園

運営協議会の熟議と教職員の熟議から次の重点目標を「考動」（考えて動く）と定め、学園全体で取り組むこととしました。地域活動協力員の具体的な活動も始まっています。



ちゅうるい学園

熟議を経て学園目標を「新しいつながり」に改定するなど、学校と地域とが共通のゴールを定めて協働する体制が作られています。毎回、活発な論議がされています。

※このほか、わかば幼稚園、幕別清陵高校にも学校運営協議会が設置されています。

課題はないの？ CSは全国各地で取り組まれています、うまくいっているところだけではなくあまり活発に動いていないところもあるようです。ここ幕別町のCSも、令和元年からスタートし今年で5年目となりますが、途中コロナ禍もあり計画通りに進んでいるとはいえない状況です。現在、少しずつ課題解決を図って進んでいるところです。

一般的に言われている課題は次の3つです。

①初めは学校のサポートが必要 運営協議会には初めからバリバリ動ける人ばかりが集まっているわけではありません。どうしても最初のうちは学校からのてこ入れやサポートが必要になります。運営協議会が自立した活動となるまでは、「学校の踏ん張りで支える期間」がどうしてもできてしまいます。幕別町も今こうした状況になっています。

②地域の人が集まらない、意見が出ない 全国的には、「運営協議会の委員になってくれる人がなかなか見つからない」「なってもらっても、学校に意見を言うのはおこがましい、となかなか意見を出してもらえない」というところも少なくないと聞きます。幸いなことに、ここ幕別町では、学校のためにひと肌脱ごうとする方々が多く、また運営協議会の熟議の工夫もあって意見をたくさん出していただいています。この点は、幕別町の強みと言えます。

③無償の活動が多く、モチベーションを維持する工夫がいる

運営協議会委員は特別公務員として年4回の会議には報酬が出ますが、それ以外は無償の活動が多くなります。また、地域学校協働活動も基本的にはボランティアとなります。忙しい日々の中、貴重な時間を割いて活動するには、目的をしっかりとらえ、やりがいと喜びを感じる活動になっていなくてはなりません。こうしたモチベーションを維持するための工夫が不可欠になります。今、幕別町では、ここのところをしっかりと築くための努力を重ねているところです。

今後に向けて ～ あせらず、ゆっくり育つ、育てるCSに

北海道教育大学安井智恵准教授のCSに関する調査・研究では、①「学校支援・地域活用型」から②「学校支援・地域参加型」へと進展し、さらに③「地域創造型」へと発展・変容するとされています。(幕別町のCSは、初めの①「学校支援・地域活用型」を何とか形にしようとしている段階です。)

安井准教授の研究は、学校と地域が課題を共有し、共通の目標を掲げ推進することで、地域の教育力も向上し、学校を核とした地域づくりが進んでいくことが示唆された結論づけ、成功の秘訣として①関係者の意識の高さ、②熟議を重ねること、③成果を急がないことの3点を挙げています。(R5.5.25教育振興第559号より)

CSの成果はすぐに現れてくるものではありません。関わる方々の意識が高まり参加人数が増えていくには、それなりの時間がかかるからです。あせらず、じっくりと育つ、育てるCSを目指したいものです。

※5月6月は、さつない学園、まくべつ学園、札内東学園、糠内学園で学校運営協議会が開かれています。

小中一貫教育・CS関係 7月の動き

- 3日(月) 糠内学園定例経営会議
- 5日(水) まくべつ学園小中合同あいさつ運動
さつない学園小中児童生徒様子交流
(12日、19日にも開催)
- 6日(木) さつない学園授業参観交流(札南、古舞)
- 7日(木) さつない学園授業参観交流(札南、札中)
- 10日(月) 札内東学園クリーン作戦
- 11日(火) 糠内学園奄美大島とのオンライン交流
ちゅうるい学園小中合同体力テスト
さつない学園校長等連絡調整会議
- 18日(火) 町小中一貫教育・CS推進連絡会議
- 19日(水) 札内東学園中学校登校
ちゅうるい学園小中合同部会
まくべつ学園小中合同あいさつ運動
- 20日(木) 札内東学園合同研修会
さつない学園合同あいさつ運動
(札中校門前で児童生徒合同実施)
- 25日(火) さつない学園こころ部生活のきまり部会